

向島の催し、ニュースは、愛隣館研修センターへお知らせ下さい。



社会福祉法人イエス団
愛隣館研修センター
〒612 京都市伏見区向島二の丸町151
TEL 075-621-3849
FAX 075-621-1579
発行 平田 義
編集 集 恵 大一郎



「竹細工、ガンバルゾ!」

楽しかったよ!

夏のキャンプ!

※ 教会学校 初級・上級・中学
※ デイサービス・「障害」児童

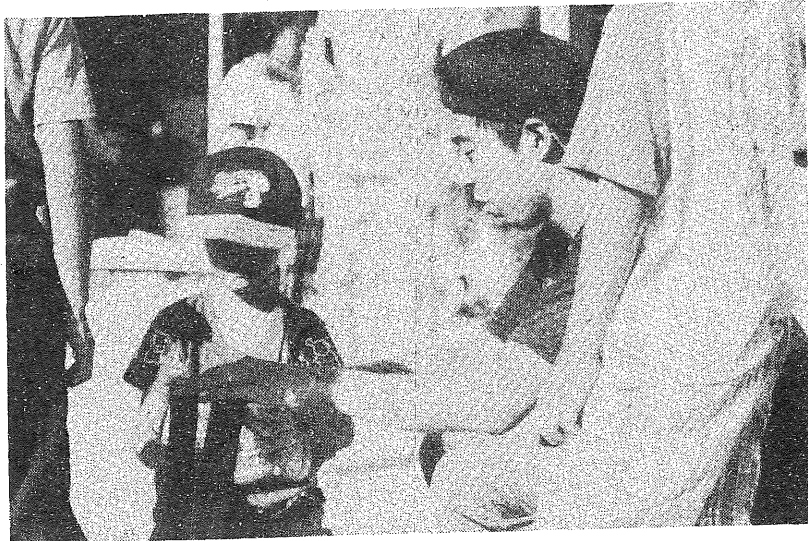
CSキャンプ

去る八月三日(例)五日(例)、京都市左京区の花背峠近くにある百井青少年村キャンプ場にて、今年のCS上級・中学校(上級は小学校三年生以上)のキャンプが行なわれました。今年のテーマは「主に向かって喜び、歌い、踊ろう」です。街のなかで生活している私たちにとって、日頃はあまり意識することの少ない「自然」の大切さに気づき、その「自然」も含め、すべてのものを与えてくださる神様に感謝し、その喜びを歌や踊りで表現してみようというねらいです。

日頃、歩くことの少なくなつた子ども達が、ふもとから山間のキャンプ場に小一時間歩いて到着します。昼食、開会礼拝をすませたあと、グループで「はた作り」。マジック

クやクレヨンなど、人工のものは一切使わずに、草木や石など自然の素材を使って、思い思いの「はた」を作り上げました。やればできるもんです。そして、キャンプ場めぐりこのキャンプ場巡りの中で、各グループが思い思い、自分たちのグループの木を見付けます。そして、その木について、「今、この木は人間から何をしてもらいたいと思つているだろう」「この木のまわりにはどんな生きものがあるだろう」など、いろんな思いをめぐらせてみました。そして、二日目には、持ってきた竹等を使って、楽器作

※ 次頁へ続く ※



まき割りに精を出す。

り。その楽器を使って夜の
ファイヤーの時に、各グルー
プの喜びを表現する演奏会も
行なわれました。
そして、最終日。開会礼拝
でこのキャンプをふりかえり、
自然の偉大さ、有難さを今一
度考え直してみました。
子ども達の心の中に自然へ
の思いやりの気持ちが生まれ
てくれればすばらしいと思
います。

初級(土曜学校)は、小学
一、二年生が参加し、丹波は
園部町近くの「ノアのはこぶ
ね労働農園」にて、八月二
日(三)の一日泊二日で行な
いました。川遊びやカヌー作
り、キャンプファイヤーをノ
ビノビと楽しんだ子どもたち
引率の大人の方が、そのパワ
ーに圧倒されっぱなし、とい
う感じでした。

十?年ぶりに泳ぎました!!?

ダイサービス・「障害」児学童キャンプ



「気持ちいい〜っ!」

今年の夏は記録に残る猛暑
とか。その猛暑の中、八月九
日(火)〜十一日(木)滋賀県安曇川
町の京都新聞ふれあいハウス
にて愛隣ダイサービスのキャ
ンプが行なわれました。共同
作業所ベテスタの家の人々、
当研修センターに集う「障害」
児学童の仲間と共に、スタッ
プも含めて総勢三〇名以上と
なり、それはそれはにぎやか
なキャンプでした。
プログラムはといえば、そ
こは琵琶湖の畔。ひたすら泳
ぐ(というよりは水遊び?)に
ことに徹しました。水の中に
入るのは十何年ぶりという人
生まれて初めて水に潜った?

という人。あるいはA式泳法
でマイペースな人等いました
が、それぞれが、その人なり
のペースで楽しむことが出来
たようです。「障害」がある
ゆえになかなかこのように水
に親しむことの少なかった当
ダイサービス利用者でしたが、
「貴重な経験が出来た」と皆
さんたいへん喜んでおられま
した。
また、「障害」児学童の子
どもたちも広い琵琶湖に大は
しゃぎ、いつにも増してリラ
ックスした表情を見せてくれ
スタッフのお兄さん、お姉さ
んらと共に、ちよっぴり深い
ところへも行ってみた。十



二分に水泳を楽しむことが出来たようです。
 そして、夜にはお楽しみみのキャンプファイヤー、二日目の晩には花火と盛り沢山のプログラム。利用者の中からもファイヤーの中のゲームをリードしてくれる人が出たり、異常なほどの盛り上がりを見せたのでした。さすがに疲れたのか、その後はすぐにバタンキュー。布団に入るやいなや高いびきの大合唱でした。最終日には、近くにある安曇川町のデイサービスセンターに有志で表敬訪問。お互いの現状をフランクに報告しあいました。
 来年度も、出来るかぎり、このような楽しいキャンプにしなければいいと思います。

※イベントのご案内※

～ にっこり・フェスティバル ～



とき 11月27日 (日) 11時～3時
 ところ 愛隣館 研修センター

今年も恒例のにっこり・フェスティバルを開催します。物品バザー、模擬店、その他色々企画中です。皆様のお越しをお待ちしております。
 ※ 主催：にっこり・フェスティバル実行委員会



とき 12月4日 (日) 10:00～
 ところ 愛隣館 野の百合ホール

ピアノ、エレクトーン、バイオリンを稽古している、幼児、小、中学生のみなさん、演奏を聞かせてください。
 ※ 参加希望者は、音楽センター(622-8546)までお申し込みを(11月20日までに)

ウエールズから

去る九月九日(日)、「有職婦人の会」の招きで来日し、日本各地の福祉施設を視察されているウエールズの福祉関係者が、当センターへも訪問してくださいました。
 日本の「障害」者福祉の現状を見聞したいということだったので、当センター利用者の方が逆に、ウエールズの状況について質問攻めにあわせてしまい、先方様の知りたかったことが、どこまで聞いていたただけですが、多少心もなかつたのですが、和やかな雰囲気では弾みました。
 在宅「障害」者にとつての介護制度等、日本よりも充実している状況を知り、「明日からウエールズに行こう」などと冗談を飛ばす人もいました。最後には「よりよい状況を生み出すように、頑張ってください」と励ましの言葉

センター往来

滋賀県 安曇川町から

もかけていただきました。
 また、九月十六日(日)には、夏のキャンプの時、訪問させていただいた、滋賀県安曇川町の「障害」者デイサービスセンター「アーンフィニ」の職員2名と、安曇川町の社協の職員1名が、当センターを訪問。お互いの地域の「障害」者福祉、地域の状況等を報告し合ったりしました。当センター利用者も「元気な様子」をみて、「うちのデイサービスにもきてほしいな」と言われるほどでした。
 非常に和やかな雰囲気では進み、「また、お会いしましょう」と、今後の交流を期待して、帰路につかれたのでした。
 このような交流を今後も大切に、様々な方々との「輪」が広がってほしいなと思

ぼくが調べた！ 向島の歴史

前号までのあらすじ
 古代、巨椋池（おぐらいけ）と呼ばれる巨大な湖の一部であった我が町向島。渡来人による開発によって次第にその姿を変えていきます。そして、十六世紀の末から豊臣秀吉による大土木工事により、その地形を大きく

変貌させたのでした。さらに十九世紀末から「全面干拓構想」が持ち上がり、一九三〇年代、戦時における食糧増産のための農地と軍用地の確保のため、湖その事業がスタートし、湖は消えることとなったので

六十年前、戦時下の食糧の増産を目的として行なわれた巨椋池の干拓工事も、今は昔かかつて、徳川家康が、豊臣秀吉との精神的な葛藤に疲れ、かごや馬で渡った豊後橋も、その後いく度か架け替えられ、今ではその名も鯉月橋と改められ、毎日、大型のダンブカーや観光バスが行き交う交通の要所?となつていきます。

我が町、向島

その鯉月橋を南へ渡って国道二四号線に沿ってしばらく歩くと、突然、視界が開け、国道の両側にそそり立ついく棟かの高層住宅群。それが、京都市が「花と緑と福祉」のキャッチフレーズの下、建設した向島ニュータウンなのです。

旧市街の中央には国道二四号線が縦貫し、街を二分しています。ちなみに、国道二四号線は、京都を起点として奈良・五条・橋本などを経て和歌山市に至る関西東南部を南北に貫く大動脈なのです。手元の史料によると、向島の町名には、大河原・上五反田・上林町・庚申町・黒坊・清水町・下五反田・新大河原

旧市街とニュータウン

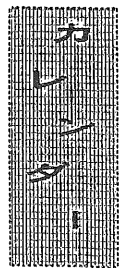
そうした向島地域の集落の特長として、古い民家は、低地特有の湿気を避けるためか概して、一m程度の盛り土の上に建てられ、宇治川の堤防に沿った部分では、土手の部分を平らに配して、そこに大きな家屋や、白壁の土蔵などを建てている農家も見られます。そして、その集落も一九六〇年代以降は、向島の中央部まで広がり、こじんまりとした建売住宅や、民間アパートが林立する。振興住宅街が誕生します。これらを総称して旧市街と呼び、公園住宅や市営住宅等が立ち並ぶ地域はニュータウンと呼ばれています。

連載 第11回

柏木 正行

新上林・新田・吹田川原町・善阿弥町・津田・大黒・鷹場町・立川原町・西定請・西堤町・二ノ丸町・二本柳・東定請・藤の木町・本丸町・又兵衛・丸町・柳島・渡シ場町などの字があります。これらの字にも、それぞれ歴史や謂れがあり、私の好奇心をそそりますが、こういった町名の謂れを調べてみるのも面白いのではないのでしょうか。

次号につづく……



◇デイサービス・秋のお出かけ◇ 十一月一日(火)、行き先未定。ボランティアで「障害者」者の介護をしてくださる方募集。詳細はセンターの方までお問い合わせください。

◇向島・につこりフェスティバル◇ 十一月二十七日(日)、物品バザー、模擬店、その他イベント。主催は同実行委員会。

◇愛隣音楽センター・クリスマスコンサート◇ 十二月四日(日)、野の百合幼児園ホールにて。当日の参加希望者を募集中。詳細は音楽センターの方までお問い合わせください。

編集後記 井

記録的な猛暑だった暑い、暑い夏が終わり、ようやく秋らしさが感じられるようになって参りました。スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋。それぞれの秋を満喫してください。当センターの方は、秋に色々行事をひかえ、職員一同気合いを入れなおしております。次号まで、皆様方お元気でお過ごしください。